

農薬豆知識【雑草のお話】

畑作雑草について その2

今回は、防除が難しいとされる畑作雑草に焦点を当てて紹介します。



【イヌホオズキ】

ナス科の一年草で、日中温度が 20℃以上になると良く発芽することから後発生する雑草に見られがちですが、実は春早くからも発生します。黒い実を付けるので、地区によっては俗称で「クロンボ」、「カラスぶどう」などと呼ばれます。昭和初期生まれの方から「小さい頃はよく食べた」と聞きますが、

一応「有毒植物」ですので積極的に食べないようにしましょう。毒の種類は「ソラニン」という馬鈴薯の芽にも含まれるものです。近縁種として「アメリカイヌホオズキ」、「テリノイヌホオズキ」、「オオイヌホオズキ」などが北海道で生育しているようで、草丈や葉の形、実の光沢などに違いがあります。

防除法ですが、効果のある除草剤としてはベタナール乳剤、ハーブラック顆粒水和剤、ロックス、フルミオWDG、バサグラン液剤、ワンホープ乳剤など多くの種類があります。しかしイヌホオズキは7月以降の発生が多いため、最終的な除草効果を出すためには土壌処理効果の長い除草剤を使うか、7月以降に上記の剤を散布する必要があります。この条件を満たすと、実用上は以下の場面に限られます。

①てん菜作付け時、7月以降のイヌホオズキが発生ピークを迎える時期で、かつ土壌が適湿な時に、10a あたり



ハーブラック顆粒水和剤 400g以上を根際散布機で土壌処理します(実質2~3回目の除草剤処理時にあたります)。※イヌホオズキの茎葉処理効果はベタナール乳剤の方が高いので、現実的にはベタナール乳剤 300ml+レナテン 100mlを同時散布します。イヌホオズキの葉齢が進んだ場合はベタナール乳剤とレナテンを増量すると茎葉処理効果が高まります。

②大豆作付け時、フルミオ WDG を 10a あたり 10g 散布し、カルチをなるべく入れない。または、大豆5葉期



以降、ロックスを畝間・株間散布する(根際散布機とその調整が必要)。イヌホオズキ唯一の? 良い点としては、ジャガイモシストセンチュウをふ化させるがシストをあまり形成させないので、馬鈴薯抵抗性品種のようにセンチュウ密度を減らせることです。しかしこれを狙ってイヌホオズキを増やすと大変なことになってしまいますので、取りこぼしてしまった時の「都合のよい言い訳」とした方が無難でしょう。

【ツククサ】

ツククサ科の一年草で、きれいな青い花が咲くのが特長です。花は綺麗なのですが、畑に生えると防除がやっかいな強害雑草です。発生



始期の平均気温は 10℃で春の早い段階から発生し、晩夏~秋に開花します。茎は根際で分枝し、茎の下部は横に這うとともに地面に着いた節からも発根します。

遮光に強く、作物に覆われても生育負けせず、切断しても茎から発根し再生出来るなど、大変生命力が強い植物です。高さは 30~70cmで種子の寿命は長く、25 年後でも 12~22%が生存し、10cm の深さでも出芽可能で地下茎を



防除法ですが、選択性除草剤で効果のあるものが少なく、その中でもセンコル水和剤は効果の高い方です。その他、メトラクロール乳剤は土壌処理であれば効果が見込めますが、ツククサ発生後であると取りこぼしが出てきます。ワンホープ乳剤もある程度効果が見込めますが、飼料用とうもろこししか登録がありません。このように選択性除草剤で効果のある剤に限られることと、処理適期が土壌処理もしくは生育初期までですので、防除困難な要因となっています。非選択性除草剤であるグリホサート剤(ホクサンではクサトリキング)も効果が劣る場合があります。高濃度でしっかりかけないと取りこぼしてしまいます。



(そあらー)

【参考文献】 北海道の耕地雑草 見分け方と防除法

(2011年10月)